

卷頭言

日本友和会に向けて



謝花 悅子

戦後71年目を迎えた今日、終わらぬ戦場、沖縄。この世の宝は命。命に勝るものはない。悪欲による戦争で全滅になった伊江島。戦場にされた沖縄。それなのに今さらなる軍備強化に、24時間闘い続けさせられている高江・辺野古。沖縄唯一の自然を守ろうと、夜は車の中での泊まり込み。沖縄も寒い時期を迎えます。このような時代の中にいて、非暴力で闘い抜いた阿波根昌鴻さんの生涯を振りかえざるを得ません。

戦後10年、伊江島の生き残った人達が島に帰されたのは2年後でした。家族も全部殺され、家もない、土地もない、島全体が飛行場化された我が島に帰ってきた人たちは、哀しみをこらえ、敷きならされた土地を開墾しました。戦争さえなければ難儀は厭わないと、夜雇働き、作物を作り、もう餓死はしないと安心して働いているときに来たのが、152軒ち退けという強制土地接収でした。今日の基地問題は、伊江島から始まりました。阿波根昌鴻さんは非暴力で、暴言・暴力を振るわず、道理をもって闘いぬきました。戦争は日本が始めたものである。日本が戦争を始めなければ、このアメリカ軍は来なかつたと考え、憎むことはしなかつたのです。

そして実弾演習をしている現場に行って、非暴力で訴え続けた闘いがありました。工事現場に行っての地主の闘いが続く中で、工事が進まない。その時に区民に対する騙しがありました。「今日はとても良い話があるから区民一人残らず集まりなさい」と、基地工事現場から離れたところに集められました。工事の邪魔にならないための騙しであった。阿波根さんは騙されたと気づき、集まっている所から反対方向に一人で歩いて行かれた。それを見た人が、どこに行かれるかと思って後をついて行ったら、米軍の作業をしている基地工事現場へ向かって行かれる。現場に行かれて聖書を出されて、「この聖書の中にあなた方がやっていることがあると思って懸命に探したが、探しきれない。探して教えてください。」と、聖書を突き出したら、作業の手を止めて、頭を下げ、うつむき黙っている。それに對し阿波根さんは、「もしこの聖書の中にあなた方がやっていることがないとすれば、神の教えに反していることであるから、やめなければいけない」と言わされたので、その日一日、米軍は作業は止めたとの話があります。

また長い闘いの中で、阿波根さんは考えたと言います。なぜ私たちはこのように危険な悲劇の中で生きなければならぬのか、この土地問題はなぜ起きたのか・・・戦争があったからである。この残酷な戦争、人間だけではないあらゆる宝を焼き尽くす戦争、この戦争をする人間こそ本当の悪魔だと考えました。そして、悪魔とは他の人間の犠牲の上に生きる人間のことである。そして殺し合い、奪い合い、騙し合って生きる人間のことだ。悪魔には限りない悪欲がある。悪魔は持てば持つほど欲が深くなり、強くなればなるほど弱いものをいじめる。

それから畜生がいる。畜生は物に左右されるものを追い求めて生きる人間のことである。戦争中は日本軍と一緒に金儲けをやり、戦後は勝ったアメリカ軍と一緒に金儲けをする。悪魔ほど悪いことはしないが、畜生には恥もないし、道理もわきまえない。

それでは、神や仏はどこにいるのか。神や仏というのは、悪魔と反対のことをする人間をさしてい

うことばである。すなわち、奪い合って生きるのではなく、譲り合って生きる人間のことを神様とも仏様ともいうのだ、と思いました。そして本当の幸福と平和は、悪魔や畜生にはない、本当の人間だけにあると思ったのでした。

75年前に起こした戦争だけでも許されることはないはずなのに、さらなることをやっている今日。国民はどうあるべきか、戦後71年間で、大切なことに無関心な人間が作られてきました。戦争、軍備強化に対し、「平和の武器は学習」と言った阿波根さん。法律や権力で抑えることができなくなった時に来るのは、嘘とだましである。それに乗らないために、学習が必要であると学び、実行された一生でありました。

軍備を強化すれば、世界のどこかで戦争が始まても大丈夫と言った安倍首相。

阿波根さんは、軍備は国を亡ぼすと言いました。沖縄、日本本土の基地を解消しても、私たちの闘いは終わらない。資本主義社会の中で、物が平等に分配されるまで闘いは終わらないとも言われました。

これから生まれてくる子どもたちに、戦場を残すのか、平和の社会を残すのかを左右するのは、今生きている大人の責任と思います。人災である戦争だけは、どんなことがありましても、止めなければなりません。人間が生きるための土地を奪い取り、すべてを殺してしまう戦争を許すわけにはいきません。悪政を作った責任を深く反省し希望を失わず、この現状をつくった国民の一人として国民、自然、すべての命を守り育てる、良心を曲げない政治家を出すために、努力しましょう。

(会員・わびあいの里代表理事)

沖縄県高江は今①

(写真: 稲葉氏提供)

反対運動の一つとして沖縄の海、山の自然、辺野古、高江の現実などをラミネートした写真にし、全国に写真展の開催を呼びかけています。これがその写真の一部です。しかし、その中心になっている写真家の1氏が11月末に逮捕拘留されました。その他反対運動の中心的な人々がなんと約10人も逮捕拘留されています。高江の反対運動は困難を極めています。本土では考えられない公権力による弾圧が、沖縄では公然と行われているのです。



なんと防衛局のヘリで
トラックを空輸

街宣車の上で抗議する市民の
手を引っ張る機動隊員 (22日
午前8時57分)



ヘリパット建設地近くを流れる
宇嘉川支流のせせらぎとリュウ
キュウハグロトンボ (円内)



稲葉氏: 全国に写真展を呼びかけている。11月29日、今年2月機動隊の車の前にブロックを積んだ容疑で逮捕、拘留されている。